

学 会 名

学会名 第60回日本リハビリテーション医学会学術集会  
(令和5年6月29日～7月2日)

研究テーマ

介護老人保健施設に入所している車いす使用者の移乗自立と連続起立回数の関係

病 院 名

健育会 ライフサポートねりま

演 者

○発表者:脇島克介(理学療法士)  
大村優慈(理学療法士)<sup>1)</sup>  
小笠原尚和(理学療法士) 酒向正治(医師)  
1) 湘南医療大学 保健医療学部 リハビリテーション学科

## 概 要

### 【目的】

反復起立は筋力増強目的で頻用されるが、連続起立回数と日常生活動作の関係は不明であり、利用者に目標値を明示することが難しい。車いすを使用している介護老人保健施設(老健)入所者にとって、移乗自立は活動性向上、トイレ動作自立、自宅復帰にとって重要である。本研究の目的は、車いすを使用している老健入所者の移乗自立と連続起立回数の関係を明らかにすることである。

### 【方法】

対象は老健入所者のうち、車椅子を使用していた38名であった。対象を移乗自立群20名と非自立群18名に分けて連続起立回数を比較した。さらに、移乗自立を陽性とした場合のROC曲線から、曲線下面積と、移乗自立を判別する連続起立回数のカットオフ値を求めた。カットオフ値算出にはYouden Indexを用いた。連続起立回数の計測は利用者の食席で実施し、車椅子や椅子の肘掛けおよびテーブルにつかまるとは許可した。連続起立回数の上限は50回とした。

### 【結果】

連続起立回数は移乗自立群で $18.2 \pm 21.2$ 回、非自立群で $2.2 \pm 4.0$ 回であり、移乗自立群で多かった。ROC曲線から求めた曲線下面積は0.706で、移乗自立を判別する起立回数のカットオフ値は10回だった(感度0.556, 特異度0.850)。

### 【考察】

非自立群のうち10回以上の連続起立が可能であった者は15%にとどまり、10回以上の連続起立は移乗自立の目安になると考えられた。ただし、移乗自立群のうち10回以上の連続起立が困難だった者が44%いたことから、食席での10回以上の起立が困難であっても、手すり、車椅子動作方法の工夫で移乗が自立できる可

」， 物作カ仏ツ上八次第、修不カヨ出、こゝ可  
能性もあると考えられた